

第137回 三重県森林審議会 (令和7年12月15日(月))

審議事項 (1) 地域森林計画の樹立・変更について

●堀内委員

資料1-1の伐採立木材積の実行値の算出方法を教えていただけませんか。

●事務局

令和3年から令和7年までの数値を集計しており、国への報告資料である業務報告の伐採状況から集計しています。これは伐採届や森林経営計画による伐採の届出等から集計しています。間伐は森林・林業統計書の数字を転記しており、数字としては造林の定期報告から集計しています。なお、令和7年度の数値は令和3年から令和7年までの平均値となっています。

●堀内委員

主伐面積と造林面積は関連づくものだと思うのですが、造林面積は目標として示されていますが、主伐は立木材積だけでなく、面積の目標や基準があるのでしょうか。

●事務局

主伐の目標値としては、材積だけが示されており、面積として示されておりません。おそらく質問の意図としては、主伐の計画量である伐採立木材積 174 千 m^3 を面積に換算すると300ha程度であるのに対して、造林の計画面積が702haであり多すぎるのではないかと考えられているところだと思います。

この造林の計画量は樹下植栽や択伐による人工造林の施業面積を含んで算定されていると思います。三重県からすると、皆伐した箇所を植栽するというのが一般的なので、与えられた目標と実行が乖離している状況です。

●堀内委員

立木材積だけでなく、伐採された森林のその後の状況も注視していただくと、森林づくりにつながるのではないかと思います。

●森委員

人工造林面積が計画量に対し、実行量が少なくなっています。県が目指すべき姿に、主伐・再造林を進めることとなっており、森林組合としては一生懸命進めていきたいと思っています。種苗業者と話す機会がありましたが、三重県も隣県が種を販売しなくなって厳しい状況となっています。また、苗木を生産しても売れない状況となっており、このままでは生産者がいなくなってしまうのではと懸念しています。計画の数値には表れませんが、行政とし

て、苗木生産に対しての取組を強化していただけないでしょうか。

●事務局

主伐・再造林は、新たな「三重の森林づくり基本計画」でも重要な取り組みに位置付けています。そのために必要な苗木を確保できるよう、県としても林業研究所の敷地内に施設を作って、苗木、特に花粉症対策の苗木の増産体制を進めています。苗木の生産者に対しては、国の支援や譲与税を活用して、施設整備や人材育成等の生産体制強化に取り組みたいと考えております。

●伊藤委員

三重県では木材チップも含め、木材価格は高い状況にありますが、その中で主伐・間伐が進まないのは森林所有者の意識低下が原因なのではないでしょうか。

●事務局

ウッドショック以降、価格が高い地域と以前の価格に戻った地域があります。再造林の経費や獣害防護柵の資材単価、人件費も上がっているため、木材価格が高くなっても、必要経費も増えているので進まない部分はあるかと思えます。

報告事項（１）保全部会の審議状況等の報告について

●意見なし。